

企業の景況感の改善が持続、6月6日にECBは0.25%の利下げを実施



欧州経済

- サービス業の回復が続くとともに製造業の景況感が持ち直しており、5月の総合PMIは12か月ぶりの高水準に上昇。
- 4月は失業率が低下し、1～3月期の妥結賃金の上昇率は23年10～12月期から幾分上昇した。4月の小売売上高は復活祭の要因などから減少したものの、雇用所得環境の改善が続く中、個人消費は緩やかに持ち直しているとみられる。
- 3月は鉱工業、建設業ともに生産活動が回復した。
- 6月6日、欧州中央銀行(ECB)は政策金利を0.25%ポイント引き下げた。ただし、ECBの経済見通しでインフレが上方修正されたことを受け、金融市場の早期追加利下げ期待は後退した。

本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取り扱いいただきますようお願いいたします。



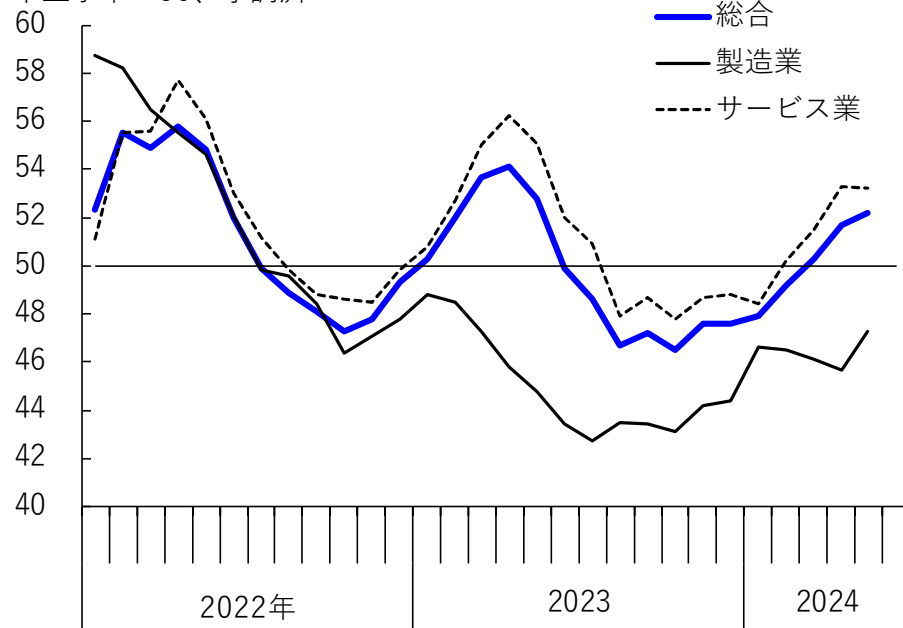
浜銀総合研究所

- 5月のユーロ圏の総合PMI（購買担当者景気指数）は52.2と上昇し、12か月ぶりの高水準となった。製造業のPMIは47.3と前月の45.7から上昇した。サービス業は53.2となり、好不況の判断基準となる50を4か月連続で上回った。物価上昇圧力の弱まりを背景にユーロ圏経済は回復している。
- 5月の各国別の総合PMIは、ドイツが52.4と4月の50.6から上昇し、2か月連続で50を上回った。一方、フランスは48.9と、4月の50.5から低下した。

※ユーロ圏PMIの正式名称は、HCOB（ハンブルク商業銀行）ユーロ圏PMI。

ユーロ圏のPMI

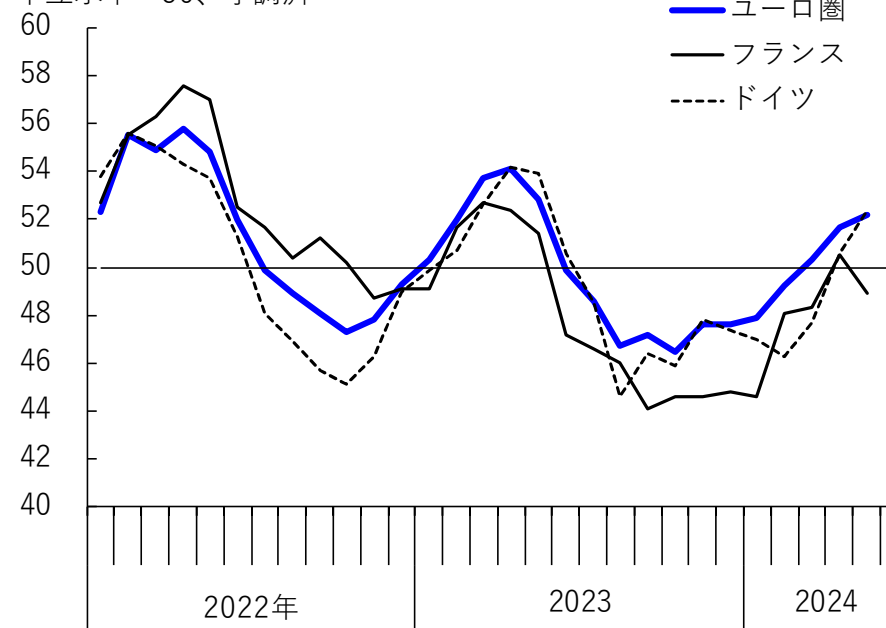
中立水準 = 50、季調済



出所：S&Pグローバル

主要国のHCOB総合PMI

中立水準 = 50、季調済

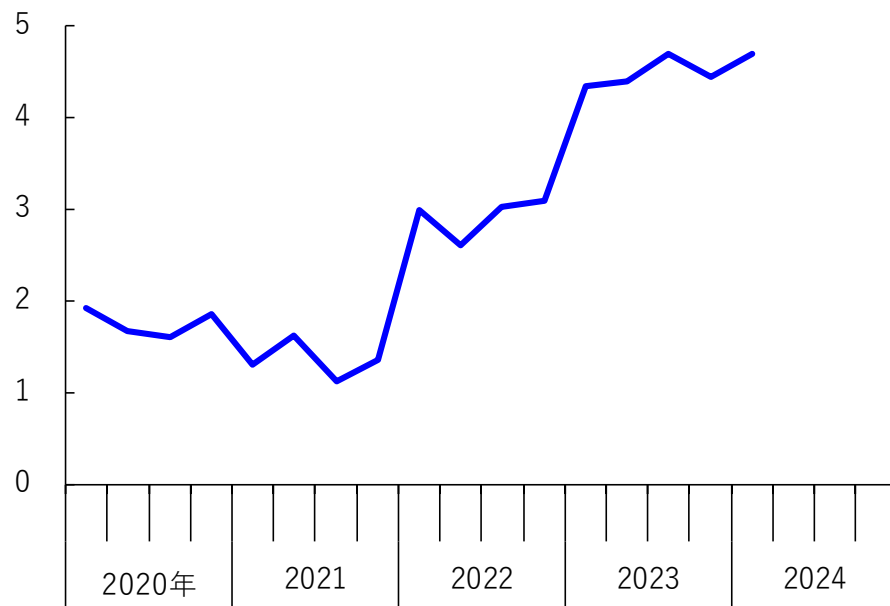


出所：S&Pグローバル

- 1～3月期のユーロ圏妥結賃金（団体協約賃金）は前年比+4.69%と2023年10～12月期の同+4.45%から幾分上昇した。
 - 4月のユーロ圏失業率は6.4%と、前月の6.5%から低下した。市場では、前月比横ばいが予想されていた。
- －雇用所得環境の回復の持続は、当面の個人消費にとって追い風となる一方、労働コストの影響が大きいサービス部門の価格上昇を通じてインフレ圧力を強める要因となる可能性もある。

ユーロ圏妥結賃金

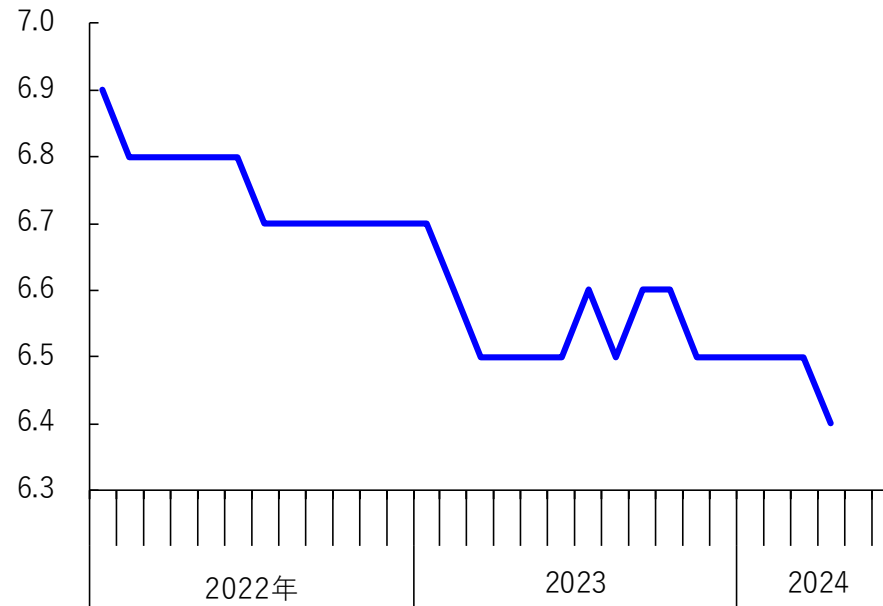
前年比、%



出所：欧州委員会統計局

ユーロ圏失業率

%、季調済



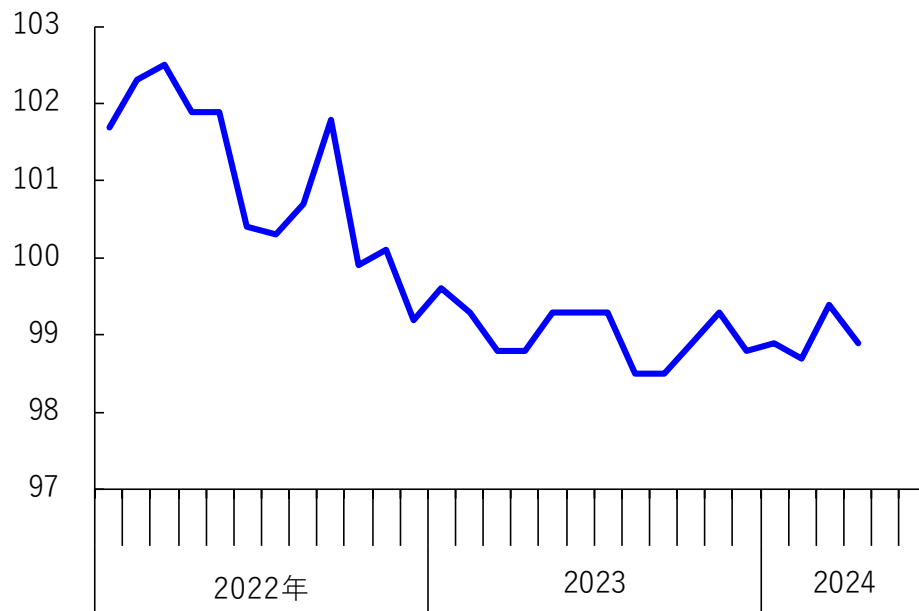
出所：欧州委員会統計局



- 4月のユーロ圏小売売上高指数は前月比-0.5%と3月の同+0.7%から減少に転じた。
 - ー 今年復活祭（イースター）が例年より早く3月31日となったため、4月の小売売上高は休暇に関連した一部の支出が3月に前倒しされた影響により下押しされたとみられる。
- 5月のユーロ圏消費者信頼感指数は-14.3と、前月の-14.7から改善した。
 - ー 雇用所得環境の回復が続く中で消費者信頼感の改善が続いていることを踏まえると、個人消費は緩やかに持ち直していると考えられる。

ユーロ圏小売売上高指数

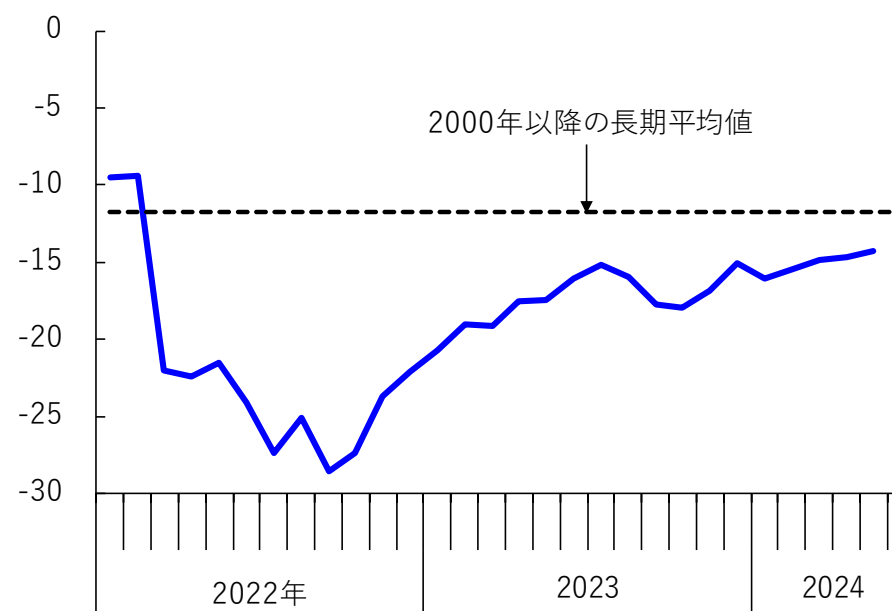
2021年=100、季調済



出所：欧州委員会統計局

ユーロ圏消費者信頼感指数

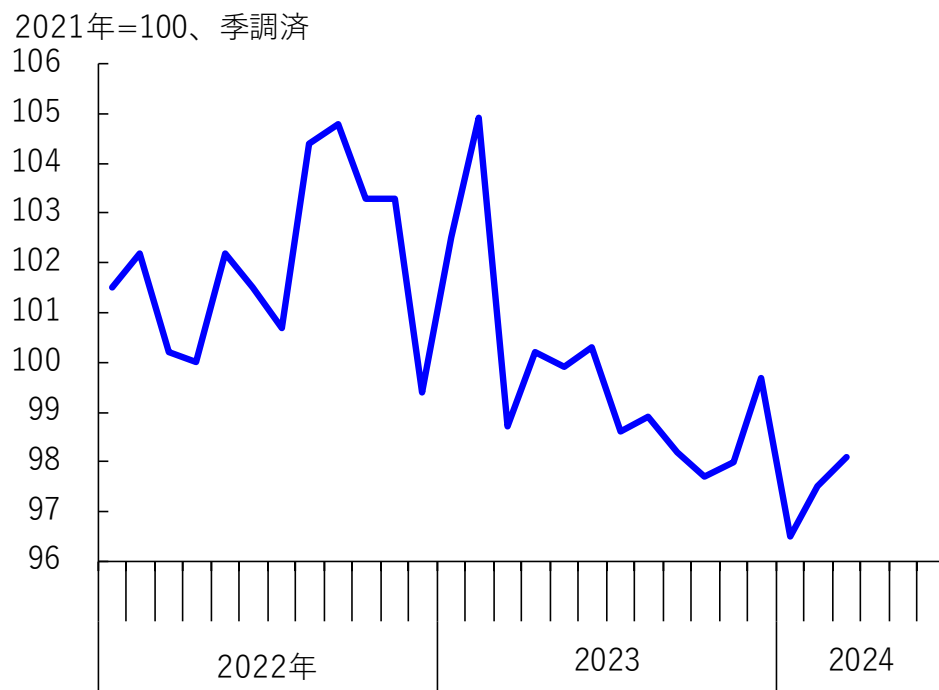
ポイント、季調済



出所：欧州委員会

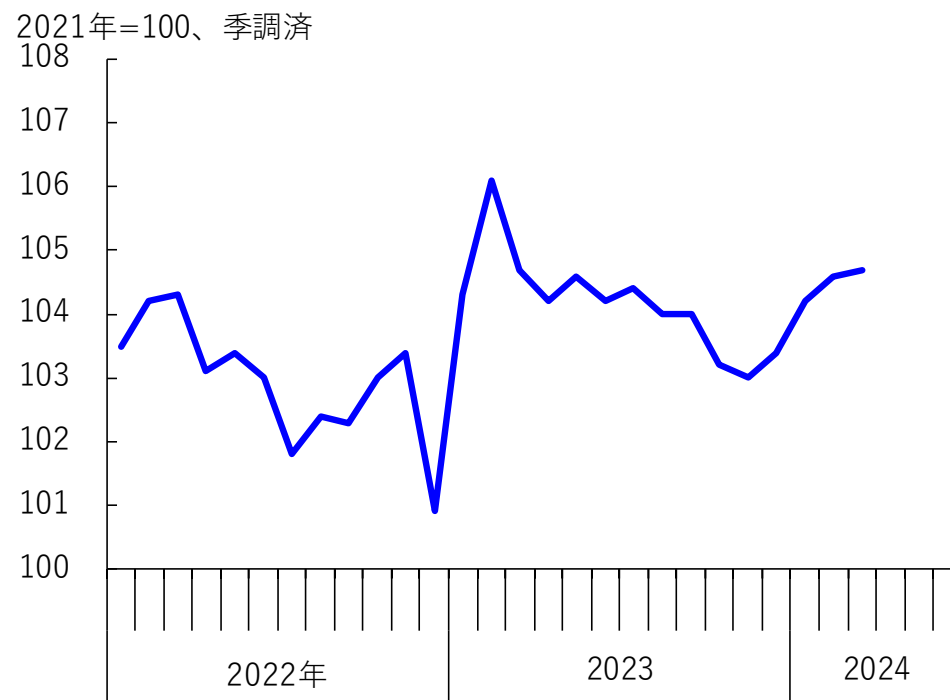
- 3月の鉱工業生産指数は前月比+0.6%と2か月連続で上昇した。財別には資本財の生産が同+1.0%と増加した一方、非耐久消費財（同-2.7%）や耐久消費財（同-1.1%）などが減少した。
 - －国別の指数は、アイルランドが同+12.8%と大幅に上昇した一方、ドイツ、フランス、イタリアなどの主要国は軒並み低下した。3月の鉱工業生産指数の結果は、アイルランドが季節調整方法を見直したことによる影響を受けたと考えられる。
- 3月のユーロ圏建設活動指数は前月比+0.1%と、4か月連続で上昇した。
 - －主要国では、フランス（同+1.1%）やドイツ（同+1.0%）が上昇、イタリア（同-1.9%）が低下した。

ユーロ圏鉱工業生産指数



出所：欧州委員会統計局

ユーロ圏建設活動指数



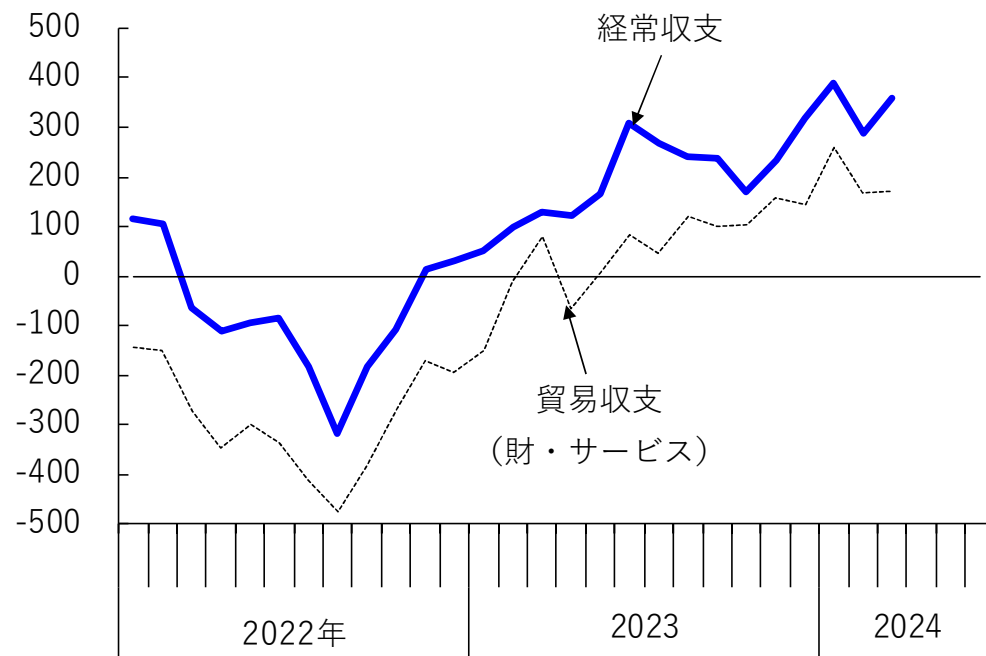
出所：S&Pグローバル

- 3月のユーロ圏の経常収支（季調値）は358億ユーロと、前月の289億ユーロから増加した。
 - 3月のユーロ圏の財の輸出（原数値）は前年比-9.2%と減少した。財の輸入も同-12.0%と減少した。
- ーエネルギーなどの一次産品や機械、化学製品などの輸入の減少により、ユーロ圏の貿易収支や経常収支は増加

基調となっている。

ユーロ圏経常収支

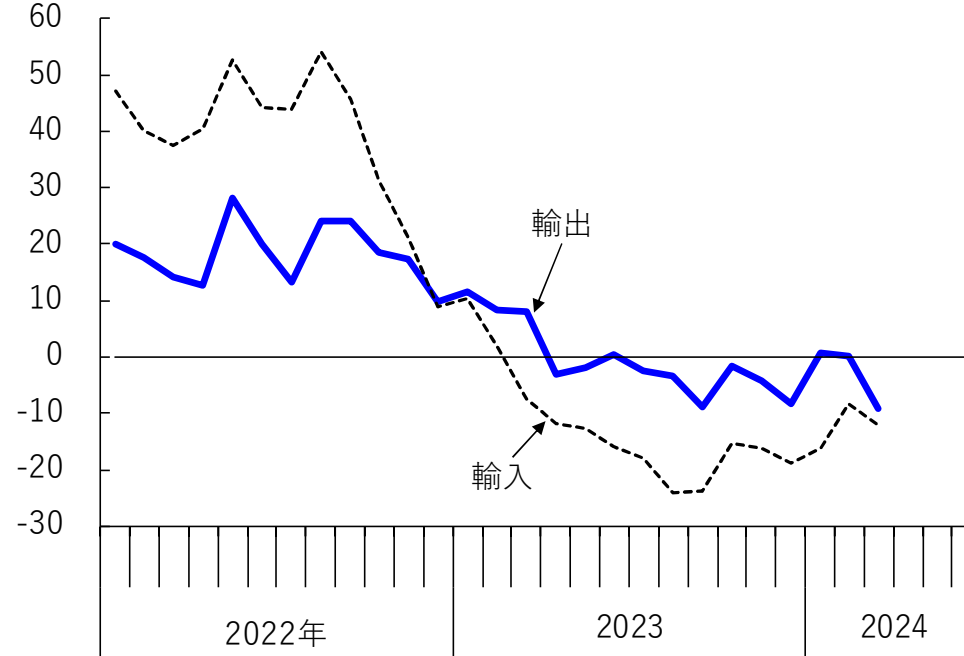
億ユーロ、季調済



出所：欧州中央銀行、欧州委員会統計局

ユーロ圏の財の輸出入

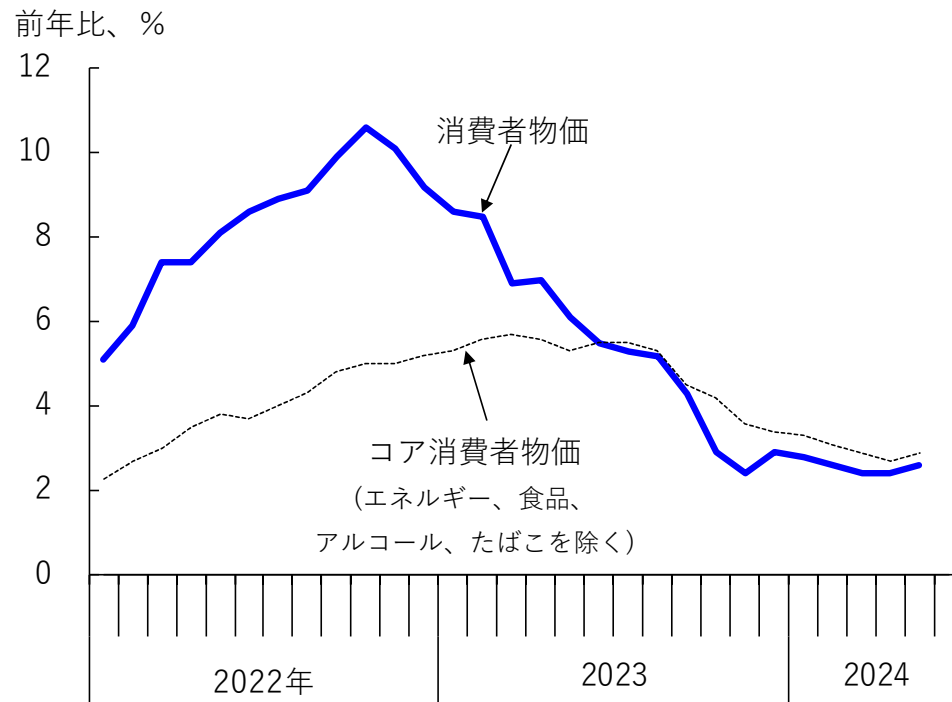
前年比、%



出所：欧州委員会統計局

- 5月のユーロ圏消費者物価指数（速報値）は前年比+2.6%と、4月の同+2.4%から伸びが上昇した。エネルギー、食品、アルコール、たばこを除くコア指数も同+2.9%と、前月の同+2.7%から伸びが上昇した。
 - －昨年、ドイツ政府が導入した格安で公共交通機関を利用可能にする特別定期券が導入されてから1年が経過し、物価対策の反動の影響が物価指数の押し上げに寄与した模様。
- 5月末の欧州天然ガス価格はメガワット時当り34.2ユーロと、年初来の高値となった。その後、6月第1週はやや低下した。
 - －中東地域の緊張の高まりや、アジア地域の熱波によるエアコン需要増などを背景に天然ガス価格はじわじわと上昇。6月3日には、ノルウェーのパイプラインの供給障害の発生を材料に価格が上昇した。当面、欧州天然ガスの高騰が物価動向に及ぼす影響を注視する必要があるだろう。

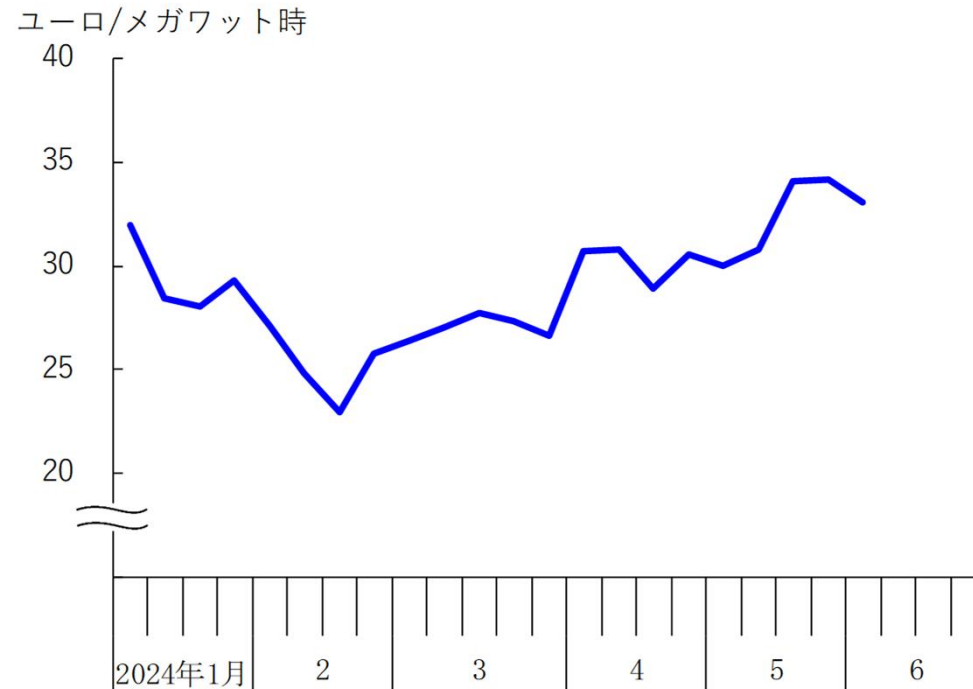
ユーロ圏消費者物価指数



注:2024年5月は速報値。

出所：欧州委員会統計局

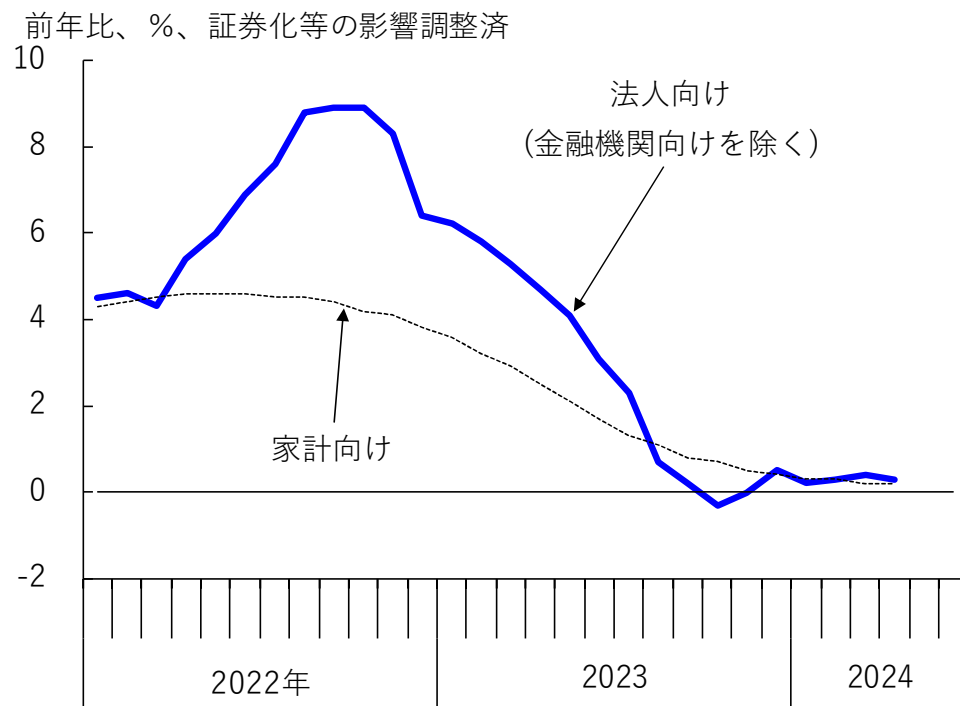
欧州天然ガス価格(オランダTTF、週次終値)



出所：インターコンチネンタル取引所

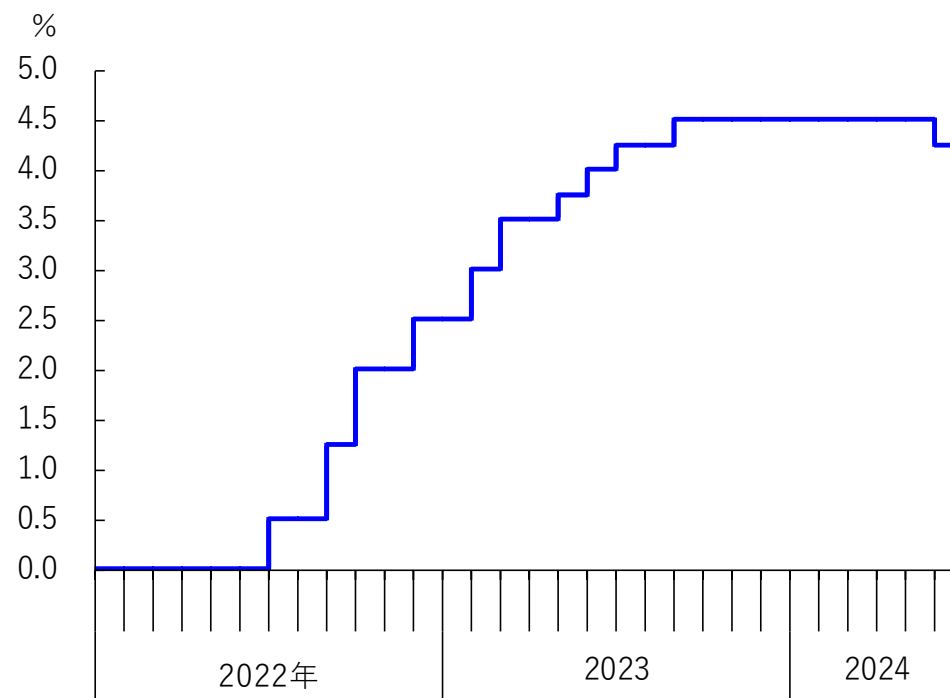
- 4月のユーロ圏の貸出残高は、企業向けが前年比+0.3%と、前月の同+0.4%を下回った。家計向けは同+0.2%と、前月と同じ伸びとなった。
 - 6月6日、欧州中央銀行（ECB）は政策理事会を開き、政策金利（主要リファイナンス・オペ金利）を4.5%から4.25%に引き下げた。
- － 会合後のECBの声明やラガルド総裁の会見では、7月の会合での追加緩和に関する言及はなく、会合ごとに経済データに基づいて金融政策を決定する方針が示された。理事会後に公表された経済見通しでは、2024年の消費者物価上昇率が0.2%ポイント上方修正された。これを受け、金融市場の早期追加利下げ期待は後退した。

ユーロ圏貸出残高



出所：欧州委員会統計局

欧州中央銀行の政策金利



出所：欧州中央銀行



横浜銀行グループ

浜銀総合研究所



2024年6月11日
調査部 特任研究員
金子 修

浜銀総合研究所では、景気動向に関するレポートなどの発行情報をメールにてお知らせしています。ご関心のある方は、下記のサイトより、「レポート更新情報お知らせメール」（無料）にご登録ください。

【URL】 https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry_repo.html?nno=5